

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

たまちゃん通信

平成 30 年 12 月発行 106-1

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

「チコちゃんに叱られる」に岩井顧問

「なんで応援は 3 3 7 拍子なの？」に答える



NHKの番組『チコちゃんに叱られる』が、いま、たいへんな人気です。

その番組で「なんで応援は 337 拍子なの？」が、平成 30 年 6 月 5 日(金)に放送されました。(すでに何度も再放送されています)

【出演】岡村隆史、【ゲスト】安田美沙子、北斗晶、【リポーター】塚原愛、【声】木村祐一、【語り】森田美由紀のみなさんで構成されています。

『チコちゃんに叱られる』は、5歳の女の子チコちゃんが繰り出す素朴な疑問に答えられない大人たちが容赦なく叱られる—そんな風変わりなクイズ番組」(NHKのホームページから)



明治大学応援団長のひらめき

今回の疑問は、「なんで応援は 3 3 7 拍子なの？」でした。これに対して、岡村さん、安田さん、北斗さんは答えられませんでした。そこでチコちゃんは、「ポーっと生きてるんじやねえーよ」と、顔を真っ赤にして叱ります。

そして、専門家に聞いてみようということで、“この方なら”と訪ねて行った先が、“民俗音楽の研究一筋 50 年”の神戸大学名誉教授で、日本民俗音楽学会会長の岩井正浩博士のところでした。

岩井先生は、日本のお手玉の会の顧問でもあります。



岩井顧問は、「3 3 7 拍子は、明治大学の天才のひらめきです」と答えて、その事情を次のように説明されました。

「天才というのは、明治大学初代応援団長の相馬基さんです。相馬さんは、応援の際『勝った方がいい！勝った方がいいたら、勝った方がいい！』とラップ調のような掛け声で、それに合わせて手拍子が生まれ、いつしか掛け声なくなり、手拍子だけになりました。

そして、この 3 3 7 拍子は、戦後、東京六大学野球で日本中に広がります」と答えていました。(写真右上：岩井顧問、下：相馬基団長)

最後に、岩井顧問は、「じゃあ次は、チコちゃんの十八番を、3 3 7 拍子で歌おうか」といっていました。(写真はすべてNHK テレビから)